

2020年6月1日

報道各位

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟



ケーブル・アワード 2020

第13回 **ベストプロモーション大賞**

グランプリは伊那ケーブルテレビジョン(株)に！

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟（東京都中央区、理事長：吉崎正弘）と株式会社イード（東京都新宿区、代表取締役：宮川洋）は、「ケーブル・アワード 2020 第13回ベストプロモーション大賞」、入賞 12 作品の各賞を発表いたします。今年、「チラシ部門」・「CM 部門」・「グッドプラクティス 部門」の 3 部門に、総数 153 作品の応募が寄せられました。

コロナウイルス禍の対応として、6月10日～11日に予定しておりました『ケーブルコンベンション 2020 / ケーブル技術ショー2020』が中止になったことを受け、国際フォーラムでの贈賞式は開催せず、リリースによる発表とした旨、ご理解ください。

グランプリはグッドプラクティス部門から選出され

「ケーブルテレビで未来を暮らそう」（伊那ケーブルテレビジョン株式会社）に決定！！

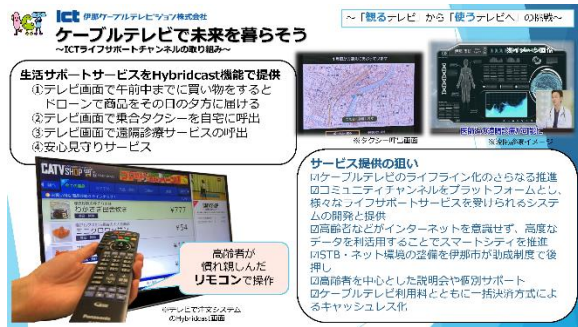
Society5.0 を先取りし、時代の要請に応えた先進的な取り組みが高く評価され、ぜひとも、他ケーブル局にも取り組んで欲しいとの意見で、満場一致でグランプリに決定しました。

ほか、各賞は次頁のとおりの結果となります。

※グランプリを含めた入賞 12 作品につきまして、受賞局による作品概要とともに審査員による講評を添えさせて頂きました。

【グランプリ】 伊那ケーブルテレビジョン株式会社（長野県）

<グッドプラクティス部門>『ケーブルテレビで未来を暮らそう』



作品概要

伊那市は、ドローン物流、AI 配車乗合タクシー（SAVS）、遠隔診療車両の導入（MaaS）、テレビで安否確認・Lアラート地図情報の提供の開発・実証を行っています。それらのサービス群をハイブリッドキャスト機能で提供するプラットフォームとして参画しています。

【審査員 講評】

- ◇Society5.0 を先取りし、時代の要請に応えた先進的な取り組みと言える。
- ◇一つ一つがとても需要の高い問題であり、高齢化社会への対応としても非常に求められる取り組みである。
- ◇After コロナ・With コロナ視点でも、「遠隔やドローン物流」などのキーワードが今の環境にマッチしている。
- ◇ぜひとも、他ケーブル局にも取り組んで欲しいとの意見で、満場一致でグランプリに決定。

【準グランプリ】



シーシーエヌ株式会社（岐阜県）

<チラシ部門>

『岐阜新聞 地上波テレビ欄への番組表掲載』

作品概要

「コミチャンを訴求するならば新聞のテレビ欄に掲載したい」全国のコミチャンスタッフは皆そう思っていると思います。もちろん岐阜でも前例がなく、岐阜新聞さんと共に掲載に向け歩み寄りを行い1日だけですが実現した企画です。

【審査員 講評】

- ◇地上波ラテ欄に載せる PR 効果も大きいですが、掲載までの提案と交渉プロセスなどでは、問題が多かったと思う。実現させたのが実に素晴らしく、驚かされた作品。
- ◇エントリー 3 部門の取り組みに一環したプロモーション戦略があり、チラシはその一つ。総合評価で準グランプリとしたい。

【準グランプリ】



【審査員 講評】

- ◇地域密着そのもの、地元感満載の振り切った作品で、とても好印象。
- ◇地域住民から親しみやすい作品であり、地域活性化という観点からでも非常に良い作品。
- ◇社内人材のスキルをフル活用。すべての人に好意度をもってもらえる。企業の成長にもつながる企画。

【特別賞】



株式会社ニューメディア（山形県）

<CM部門>

『いつもこんな風にしてますが何か問題でも?』

作品概要

より地域に根差す、地域密着を体現する為に、手法として地元方言を活用した親近感あふれる形で制作。どこか現実離れした世界にも感じられるテレビ放送を、近く感じてもらうことを狙ったイメージCMです。

株式会社 Goolight（長野県）

<CM部門>

『2019 スラックラインW杯プロモーション』

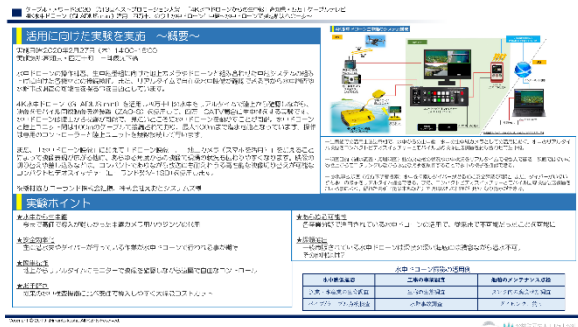
作品概要

2019年9月に長野県小布施町で開催された「スラックラインワールドカップ」のプロモーションを目的としたフル4KによるCM映像を、世界遺産に登録される京都仁和寺（御室桜満開の4月）を舞台に制作。大会PRとインバウンドを目的に全世界にウェブ配信。

【審査員 講評】（2020年アンバサダー田中律子さんによる選奨 ※コメントは審査員も含む）

- ◇仁和寺のロケーションとスラックラインの組み合わせ、和太鼓とスポーツの躍動感、見るものすべてを惹きつける。
- ◇映像クオリティー、音、構成、ケーブルテレビ局の制作クオリティーとしては、図抜けている。
- ◇2年前のグランプリ受賞から、継続的に取り組んでおられることを評価したい。

【RBBDTODAY賞】



【審査員 講評】

- ◇空撮用のドローンはメジャーとなっている一方、水中ドローンは今後の活躍を期待されている。
- ◇四万十町では、水道タンクなど人が入れない場所での調査使用など、意欲的な検討が進められている。

四万十ケーブルテレビ（高知県）

<グッドプラクティス部門>

『4K 水中ドローンからの生中継』

作品概要

4K 水中ドローン（GLADIUS mini）とモバイル伝送装置を活用し水中からの生中継を実現!!
また、水中ドローンの活用で従来まで不可能だったことを可能にし、地域の課題解決へ。

【ケーブルチョイス賞】



株式会社ニューメディア（山形県）

<CM部門>

『つながりたい、つなげたい、あなたと夢を』

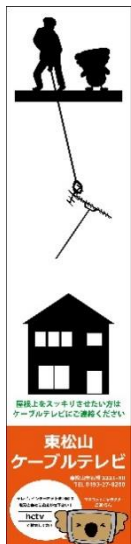
作品概要

「私はもっと街とつながりたい。そしてつなげたい、あなたと夢を」ケーブルテレビのサポートスタッフとして働く主人公が、お客様へのサポート対応を通して地域の笑顔につながっていることを実感。ふと自分の家族にも思いを馳せ、これからも頑張ろうと決意を新たにします。

【審査員 講評】

- ◇ケーブルテレビでクオリティの高いアニメーション CM への取り組みはとても評価できる。
- ◇訴求内容の設計には工夫の余地があるものの、アニメーションで企業の想いは伝わってくる。

【優秀賞】



東松山ケーブルテレビ株式会社（埼玉県）

<チラシ部門>

『マジックハンドで取るものは・・・』

作品概要

お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、アレのパロディです。駅員さんが線路の落とし物を取るときに使う「マジックハンド」が収納されている BOX に取り付けられた広告です。ケーブルテレビとしての最大の特徴をアピールし、会社の認知度向上を目的として制作しました。

【審査員 講評】

- ◇アンテナが要らないことがケーブルの魅力であることをシンプルにわかりやすく伝えている。
- ◇シンプルだが、駅のホームの掲出場所選定の工夫など、デザイン性が非常に高い作品。

【優秀賞】



東松山 ケーブルテレビ株式会社 電話 027-227-868

株式会社中海テレビ放送（鳥取県）

<チラシ部門>

『家計を見直してみよう！』

作品概要

新生活などいろいろなことが始まる春。そんな春に家計の見直しをしてみてはどうでしょうか？と主婦層に訴えかけるとともに、『中海テレビでまとめる とこんなにお得になります！』を提案するチラシです。

【審査員 講評】

- ◇主婦層が思わず手にとってしまう内容と「見る」「書き込む」の2つの動作を生み出す仕掛けが素晴らしい。
- ◇ただ安さから入るより興味を持ちやすく、裏面の利用者とともに30周年の訴求がチラシを生かしている。

【優秀賞】



株式会社ケーブルメディア四国（香川県）

<CM部門>

『いつでもあなたのゴールデンタイム』

作品概要

昨年度は社名（CMS）の認知度向上を目的にプロモーションを実施し、10ポイントの改善効果を得た。今年度はこれを深掘りし、サービス名称とそのベネフィット（ピカラ光てれび／多彩なCS放送・地域密着・ケーブルテレビの利点）の認知度向上に向けプロモーションを展開した。

【審査員 講評】

- ◇地元の素人起用がはまり、地元感溢れるCMとなっていて素晴らしい。
- ◇素人の個性やコメントの味わいを引き出し、シリーズCMのコミュニケーション設計がしっかりできている。

【優秀賞】



株式会社 TOKAI ケーブルネットワーク（静岡県）

<CM部門>

『4K 静岡絶景 富士山と雲海篇』

作品概要

地元静岡の知られざる絶景（静岡市清水区吉原）を4Kカメラで撮影し、映像美による興味を掻き立て「4K放送」を訴求。

【審査員 講評】

- ◇お客様に対して、自然の綺麗さと同時に4Kの世界観が伝わるプロモーション作品である。
- ◇映像の綺麗さとともにインパクトが強く印象に残る作品で、RBBTODAYでも高評価の作品であった。

【優秀賞】

成田洋一監督のCM制作塾 ～私たちの町“生保内”を売り出せ！～

秋田県出身、CM界の巨匠ディレクター・成田洋一氏。映画、テレビ、広告、音楽など様々な映像を地元・秋田県で制作しており、映像を通して地方創生を目指す。故郷に住む子ども達のために自分ができることはいか、その思いを地域事業である秋田ケーブルテレビがカタチに。若者の県外流出が課題の秋田県において、映像の力で子ども達に故郷の魅力を再発見してほしい。そんな思いでCM制作塾を企画。秋田県仙北市生保内（おぼろない）の中学生にCM制作の特別授業を数か月に行う。＜生保内を売る＞をテーマに、地元・生保内地区の魅力を表現するCMを制作する。成田監督の指導を受けてプロの技術を肌で感じる生徒達。CM制作を通して、その過程で地元・生保内地区の魅力を再発見していく。

2019年	2020年
4月	12月
5月	1月
6月	2月
7月	3月
8月	4月
9月	5月
10月	6月
11月	7月
12月	8月
1月	9月
2月	10月
3月	11月
4月	12月

成田洋一監督プロフィール
秋田県出身。これまで多数のCM制作のほかテレビ番組を正統的プロデューサーとして制作。近頃は映像のクリエイティブにも参加し、第一線で活躍。またCM制作だけでなく、映像祭や映画祭、音楽祭など様々なイベントの企画・制作にも参加している。また、映像を通して地方創生を推進する活動にも参加している。代表作として、『生保内を売る』が挙げられる。2021年春に公開予定。

成田洋一監督
秋田県出身の映像監督。映像を通して地方創生を推進し、映像を通して地方創生を推進する活動にも参加している。代表作として、『生保内を売る』が挙げられる。2021年春に公開予定。

CM制作塾の経緯と活動
「生保内を売る」制作委員会
「生保内を売る」制作委員会
「生保内を売る」制作委員会

CM制作塾の経緯と活動
「生保内を売る」制作委員会
「生保内を売る」制作委員会
「生保内を売る」制作委員会

CM制作塾の経緯と活動
「生保内を売る」制作委員会
「生保内を売る」制作委員会
「生保内を売る」制作委員会

株式会社秋田ケーブルテレビ（秋田県）

<グッドプラクティス部門>

『成田洋一監督のCM制作塾』

作品概要

秋田県出身 CM ディレクター・成田洋一氏が目指す「映像を通じた地方創生」。その思いを秋田ケーブルテレビが形にし、仙北市の子供たちへ特別授業を開催。子供たちは地域の魅力を伝えるCMを制作。その過程を番組化し、CMは地元の映像祭及びコミチャンで放送される。

【審査員 講評】

- ◇CM 界隈で有名な成田氏を起用した企画構成、中学生とのコラボから生まれたCMの完成度も高い。
- ◇取り組みのプロセスの見せ方もうまく、作品全体の中でも高評価。

【優秀賞】

自宅待機の子ども達を元気に！ いるまっ子チャンネル

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、突然休校が決まりました。入間市では、首相の休校要請の翌日に3/2～の休校が正式決定。その日が3学期最終日になりました。下校までの時間はあまりに短いものでした。お別れの言葉も十分に伝えられずにいた先生方に協力いただき、家で過ごしている子どもたちに向けた教材コンテンツを制作しました。

番組の一例



チャレンジ！九九検定

3学期に実施するはずだった「九九検定」をテレビで再現。先生より早く九九を言えるかな？



家でできるエクササイズ

外出できない子どものために先生がオリジナルの運動を考案。BGMは先生の歌声。



よいこのすごし方

よくねる、のこさず食べるなど、家での過ごし方を1年生の先生が楽しく説明。

より多くの子ども達が見られるよう、YouTubeにも動画をアップ！

ICTV 入間ケーブルテレビ

入間ケーブルテレビ株式会社（埼玉県） ＜グッドプラクティス部門＞

『自宅待機の子ども達を元気に！ いるまっ子チャンネル』

作品概要

新型コロナウイルスの影響で突然の休校が決まりました。入間市では、首相の休校要請の翌日が3学期最終日になりました。お別れが十分伝えられず心残りを感じている先生方に協力いただき、家で過ごしている子どもたちに向けた教材コンテンツを制作しました。

【審査員 講評】

- ◇今日的な課題に、実にタイムリーに応えた地元密着対応が素晴らしい。
- ◇他ケーブルでも取り組みが広がっているが、「いるまっ子チャンネル」放送の積み重ねがあってこそその時限的対応。

*****以下、今後の予定をお知らせします*****

【ケーブル・アワード2020】第13回ベストプロモーション大賞については、当初想定しておりました、贈賞式における受賞作品紹介と、グランプリ等受賞者に登壇いただくパネルディスカッションの代替策として、オンラインセミナーのコンテンツとして、以下のプログラムを計画しています。

ケーブル・アワード2020ベストプロモーション受賞作品はこれだ!!

～優れたプロモーション施策に学ぶ～

※企画内容や取り組み意図など【全】受賞局映像コメント、さらに詳細な審査員コメント等で構成。

※上位入賞局各社には、10分程度の映像で説明いただきます。オンラインセミナーのスタートをお楽しみに!!

※オンラインセミナー：7月1日（水）～8月31日（月）予定

■ 本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 コンテンツ部 担当：原、大平、齋藤

TEL：03-3566-8200 E-mail：award@catv.or.jp